

10月2日(水)、第6回学校経営研修会が行われました。開会の挨拶では、石田和義 県小学校長会会長より、「校長としての構え」として、①日頃から、教職員との対話や観察を通して、一人一人の強みや持ち味等を的確に捉えること、②学校という組織の中での働きぶりや貢献度を把握しておくこと、そして、③教職員一人一人と誠実に対応することが大切であると話されました。教職員の不祥事の防止については、あらためて法令順守、服務規律の確保、綱紀粛正の徹底に教職員全体で努めていかなければいけないとも話されました。



また、教職員課、教育みらい室小中学校課教育力向上担当、児童生徒支援担当より指導講話がありました。その後、各部会からの報告・連絡がありました。



後半は、南砺市小学校長会より「一人一人の教育的ニーズに応じた支援の工夫」というテーマで提案発表がありました。南砺市では、市教育委員会とこども課の担当者、また3年前から校長も同行し、幼稚園や認定こども園等を訪問する機会を設け、次年度の入学児だけでなく年中児も対象に、園児の様子を観察したり、カンファレンスを行ったりしているそ

うです。教育委員会や園が、保護者と学校の仲介を行うことで、発達が気になりな園児を医療機関や検査にスムーズにつなげたり、配慮が必要な園児の保護者が小学校を見学する機会を設定したりするなど、幼少期からの適切な就学指導につながっているとのこと。また、特別な配慮が必要な児童についての関係者会議を、保護者を交えて定期的に行っており、関係者会議には、幼少期から関わっている市教育センターや教育支援センター等の方にも継続的に出席してもらうことで、保護者の安心感につながっているというお話がありました。

全体協議では、「関係者会議に保護者が一緒に参加できる環境があるのは、市や関係機関が連携して幼少期から支援を行い、保護者とよい信頼関係を築いている成果ではないか」など、活発な意見交換が行われました。

